

今日のトピック 最近の指標から見る日本株式（2017年4月）

緩やかな景気拡大、企業収益などが株価のサポート材料

北朝鮮やシリア情勢を巡る地政学リスクが強く意識されるなか、このところ日本株式市場は軟調に推移しています。最近の経済指標から日本株式の投資環境を再確認します。

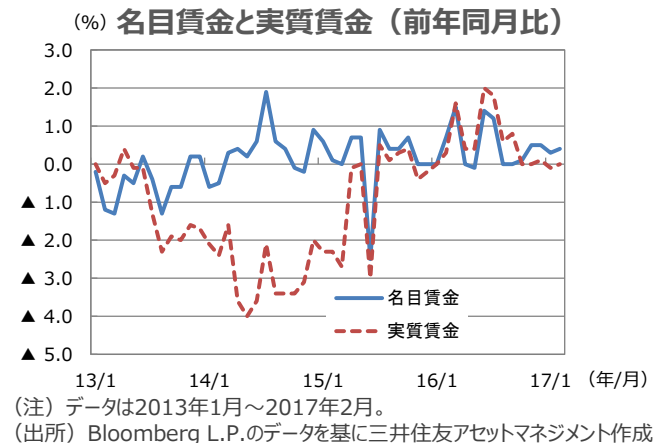
ポイント1 生産は市場予想を上回る 先行きも上昇基調

- 2月の鉱工業生産指数は102.2と前月比2.0%増となり、市場予想（同1.2%増、ブルームバーグ集計）を上回りました。17年1-2月を均してみると、16年10-12月期を1.6%上回っており、16年7-9月期以降の生産の回復局面が続いています。
- 製造工業生産予測調査でも、17年1-3月期の上昇基調が示されています。



ポイント2 実質賃金は横ばい 賃金上昇ペースは加速せず

- 2月の毎月勤労統計調査によると、物価変動の影響を除いた実質賃金は前年同月比横ばいでした。横ばい圏の動きは5カ月連続です。一方、名目賃金（現金給与総額）は同0.4%の上昇でした。
- 2月の失業率は2.8%と94年以来の水準まで低下し、3月短観の雇用人員判断DIも一段の人手不足の深刻化を示唆しています。ただし、賃金上昇ペースの加速になかなか繋がらない状況が続いています。



今後の展開 緩やかな景気回復が続こう。企業収益などが株価のサポート材料

- 海外景気の回復やITサイクルの上昇基調から生産の回復傾向が継続すると見られるため、日本経済は緩やかな景気拡大が続く見通しです。また、賃金の上昇ペースが加速していないことから物価上昇は緩やかなものにとどまると見られ、日銀の金融緩和が長期化すると見込まれます。
- 足元の日本株式市場は、トランプ政権への期待の後退や地政学リスクなどから調整局面を迎えています。景気拡大に伴う企業収益の増益基調と日銀の金融緩和が株式市場を支える材料と思われます。

ここも
チェック! 2017年4月5日 値上げと「消費者物価」への影響 (日本)
2017年4月4日 「短観」、一段と強まる人手不足感 (日本)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。